令和８年３月３１日

軽井沢町議会
議長　川島 さゆり　様

押 金　洋 仁

研 修 報 告 書

１．日時　　令和 7 年 11 月 19 日（水）　14 時～16 時 30 分

２．場所　　上田市中央公民館　第 1 会議室

３．目的　　（１）千曲川ワインバレー特区議員連絡協議会総会出席
（２）基調講演「千曲川ワインバレー量的／質的調査の報告」聴講
及びワークショップ参加

４．研修内容
（１）千曲川ワインバレー特区議員連絡協議会総会
1)第一号議案　令和 6 年度会計報告
2)第二号議案　令和 7 年度予算、活動予定

（２）
1)基調講演「千曲川ワインバレー量的／質的調査の報告」
講師：日本能率協会コンサルティング 大野晃平氏

◎質的調査（＝ワイナリー来訪者へのアンケート）及び
量的調査（＝携帯電話基地局データから得た来訪者の人流分析）から得られた
以下の傾向について学ぶ
①千曲川ワインバレーの支払意思額（Willingness To Pay:WTP）に関する調査報告
WTP を＋と回答した理由としてより有意性の高いもの
・好みの味
・ブドウ栽培やワイン醸造における工夫
・ワイナリーの考え方
・店舗の作りや雰囲気
②自宅からワイナリーまでに使った交通手段は
③何について口コミしたいと感じるか
④ワイン観光に何を求めるか
⑤千曲川ワインバレー全体に求めることは何か
⑥千曲川ワインバレーについて知りたいことは何か

◎調査結果から見えたこと

・飲酒率が低い若年層もワイナリー来訪に魅力を感じている

・ワイナリーは来訪者にとって魅力的であり、すでにコアなファンもいる

・軽井沢駅、上田駅への来訪者とワイナリー来訪者の属性はアウトドア／アクティブ志向という点で合致しているものの、ワイナリーまで足を伸ばしていない客層が多くいる（軽井沢駅→ワイナリー0.12%,上田駅→ワイナリー1.1%）

2）ワークショップ

ファシリテーター：立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構
補助研究員　篠田 真穂氏

①千曲川ワインバレーの現状と課題について話し合う

②議連としてできることについて考える

5.　考察

千曲川ワインバレー特区議連の令和 7 年度総会終了後、第 2 部として設けられた基調講演は、日本ワインの現在地を俯瞰した概論と千曲川周辺ワイナリーにフォーカスして顧客像を掘り下げた各論により、短時間ながら手際よく論点を理解させる内容であった。興味深かったのは、支払意思額（＝WTP）の観点から見えるワイン購入者の指向性・属性であった。20 代～40 代の若年層においては、価格帯の高さから販売価格より安く位置づけるマイナス評価が多いと予想されるところ、実際には全回答者が高く評価していた。これは都市部では味わえない環境やコミュニケーションの機会があることによる、との分析であった。

また年齢に関係なく、自身を内向的と判断する層の方が WTP を高く評価する傾向にあった。ワインにアルコールによる高揚感を求めるというより、栽培・醸造技術やストーリー等の知的好奇心を満たす趣味性を求めるからではないか、との仮説が示されていたが、ステレオタイプな見立てとは異なる結果ではないだろうか。

講演に続くワークショップでは、参加者がグループに分かれ、千曲川ワインを巡る現状と普及のための仕掛けや施策について意見を出し合った。課題としてはワイナリーの立地の現状としてアクセスが悪いこと、車に頼らざるを得ないこと、公共交通機関がないこと、また流通面ではそもそも価格が高くコースメニューに入れにくいこと、一般消費者からも敬遠されがちなこと、行政面では自治体間の温度格差や打ち手のタイミングのずれ、連携不足が挙げられた。

打開策として、小規模ワイナリーの個々の努力では限界があるため、広域での一体的な広報活動、ポータルサイト開設や葡萄酒まつり、ワイン days 等のイベント実施、自治体間での情報交換、域間をまたがった広域の公共交通の運行、知的好奇心を満たすワイン大学の開設などのアイデアが寄せられた。

議連としてまず働きかけができるのは、やはり自治体間で連携した一元的な情報発信やイベント実施など一体的な取り組みではないか。広域での一体的な取り組み

が進むことにより、各ワイナリーによる特色の打ち出しや後継者不足等の課題が好転する可能性もある。併せて交通手段確保も優先度が高いだろう。まずは非常運行でも良いので、イベント開催時や季節限定での広域バス運行も試行策して考えられるのではないだろうか。